

★本紙名「8200」とは改正商法による「株主代表訴訟」に要する裁判費用に由来します★

Daily  
Fax  
News

日刊

8200

発行 月光社情報出版  
編集 財部研一郎  
東京都中央区日本橋箱崎33-1  
☎ 03-3668-8200 (代表)

■ 1994-11-21 ■

【人物突撃インタビューシリーズ】 …その7… 『敬天新聞社』 白倉康夫社主の巻  
目下、独自の街宣活動で赤丸急上昇中の九州男児！

# 『敬天新聞社』 白倉康夫 社主に突撃取材！

## 「若者よ激動の時代の國士たれ！」 「平成の国賊は我が手で討つ！」……

新橋駅頭街宣活動中に語った“熱い想い”を紙上再現！

「総会屋・小川 薫」と言えば余りにも有名！……古くは清水一行氏による『悪名集団』、最近では大下英治氏の手になる『最後の総会屋』の“主人公”として登場、良くも悪くも小川氏のすさまじい生き方が余すところなく描かれているので、ここでは多くは説明しないが……何しろ、総会屋としてのキャリアは30年！……同氏のモロ広島弁のダミ声は、並いる大企業の経営者および総務担当者ならずともシビレさせてきたことは知る人ぞ知るところである。また昨年来、社会面を賑わせてきた荒れ模様の株主総会、そして「阪和銀行」「富士写真フィルム工業」「住友銀行」など企業役員に対するテロ事件の後には、必ずと言って良いほど事情通としてマスコミに登場、〈総会屋〉という言葉すら知らなかった一般市民までも興味を持たせた“功績”は大きい？と言わねばなるまい。

ところで、このところ〈暴力団系総会屋〉なる言葉がマスコミに登場しない日はないが、一体〈暴力団系総会屋〉とは何をもって規定するのであろうか？……軽々に言葉を振り回す識者の見解を聞いてみたいと小紙は常常思っている。もちろん、暴力団と総会屋の利害が一致した場合には、それなりの協力体制をとることは少なくないし、そうした呼び方も当たっているが、現実には両者の関係は巷間言われるほど親密なものではなく、むしろ両サイドとも同一視されるのを迷惑がっているというのが実情である。

それはさておき、件の小川 薫氏、最近は「大衆株主運動」に精力を傾注、その一環として毎週水曜日の夕刻5時30分から国電新橋駅頭の機関車前広場で毎週テーマを変えての街頭演説会を開いている。名付けて「小川 薫の辻説法」……時事、経済問題、そして得意の企業事件等をナデ切り。……分かりやすい分析と解説、また企業事件の舞台裏情報はピカイチということもあってか、聴衆の数も回を追う度に増えている。

さて、この辻説法だが実際の主催者は今回、小紙が突撃取材を敢行した『敬天新聞社』（本社埼玉県戸田市美女木2の27ノ29）の社主である白倉康夫氏（43歳）である。交換した名刺の裏には「国賊は討て」との檄文は入っているが（右コピー参照）「右翼」でも「総会屋」でも、ましてや「暴力団」に属する人間ではない、あくまで「新新聞社々主」である。出身は九州肥前、長崎県。九州男児らしい風貌に加えてハチマキにニッカボッカというユニークな出で立ちには、さすがの小紙も度胆を抜かれそうになった？が、11月初旬の水曜日・夕刻5時。テレビ局、週刊誌の取材に多忙な白倉氏に突撃インタビューを敢行した。……小紙記者「单刀直入に國士啓蒙運動とは何ですか？」……☆白倉社主『ひと時代もふた時代も前に言われた“國士”ではありません。“日本を愛する心・公平な社会を願う心”。このふたつの心が少しでもあれば、既に“國士”なのです。こうした小さな行動、小さな情熱を大きなものにしたいのです！』と言葉短く語った後、同氏は街宣車の壇上に登って行った。

広場の聴衆に対する挨拶に続いて語り出したのは『戸田競艇場』での“八百長疑惑”をウヤムヤにした？『日本船舶振興会』と当時の同競艇場伊集院完審判長ならびに同競艇の主催者の中核である新新聞社社長戸田市長への強烈な糾弾演説であった。（次号に続く）

◆年間購読料（個人会員）20万円（法人会員）30万円 ◆後記欄に〈⇨〉がある場合は会員専用電話にダイアルして下さい ◆当社は収益金の一部を『厚生省エイズ予防基金』に寄付しています◆

☆☆☆ 会員専用 売店無断複写車載 ☆☆☆

社主  
白倉康夫  
敬天新聞社  
国賊は討て

本社：埼玉県戸田市美女木二丁目二九  
電話：048-921-0359  
FAX：048-921-0356  
九一四